

ねえ ねえ～..

【秋の草花の中で 一番 秋らしい草花って な～に??】

・・・チョコちゃん 風・・・



秋田刈る 仮廬(かりいほ)の宿(やどり) にはふまで 咲ける秋萩 見れど飽かぬかも
(現代語訳) (万葉集より)

(秋の田を刈るために建てた仮の小屋にまで 美しく咲いている秋萩は、見飽きることはありません)

秋の代表的な草花で 字の似通った萩と萩がありますが、荒川の土手に広がる 田島ヶ原周辺や その対岸の地区は、その昔 十五夜から十三夜の間、萩と萩の名所として賑わったことから、秋河岸(=後に秋ヶ瀬)と呼ばれるようになった・・・と、一説では伝えられております。

ところで、「萩」という字は、[草かんむり]+[秋] → これ以上”秋らしい草花”は有りません。又その名前の由来は、毎年 地面下から新芽を出すので「はえぎ(生え芽)」と呼ばれていたのが 次第に「はぎ」に変化した・・・との説が有力のようです。

そして“甘いものには目がない方々の大好物 = 「おはぎ」の名前の由来は、萩の花が野原で咲き乱れる状景と“つぶ餡”の点々と散っている小豆の形状が似ているところから、昔の宮中の女官たちが その呼び名を「萩の餅」そして「御萩餅」～「御萩(おはぎ)」へと 女房詞(にょうぼうことば)として変えていったようです。又、地域によっては、“「あんこ」のつぶし方”で、粒あん＝「半殺し」、こしあん＝「皆殺し」と呼ばれており、たかだか「おはぎ」一つ食べるのに命がけ・・・と錯覚してしまいそうです。

一方 この時期、姿かたちが瓜二つで混同されがちな”萩” と ”すすき” が有りますが、萩には「風聞きぐさ」という名前があるように、“さやさや”と音を立て秋を実感できる風情があります。“秋”の描写には舞台や小説で とかく“すすき” ばかりが取り上げられがちですが、「萩」の文化的、芸術的価値への貢献にも敬意を表して一句。

「萩の葉の そよぐ音こそ 秋風の 人に知らるる はじめなりけり」

紀 貫之 (拾遺集)

ヤマハギ



オギ

